

# 寄稿 愛・地球博開幕に寄せて



古川 晶章 (ふるかわ まさあき)  
豊田通商株式会社 社長  
(社)日本貿易会 常任理事

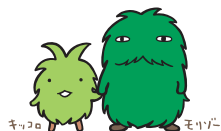
3月25日、いよいよ2005年国際万国博覧会“愛・地球博”が始まる。この博覧会は、国、地方自治体および企業、NPOなどの10年以上にわたる地道な活動の集大成と言える。“地球規模で気候がどこかおかしい”と誰もが思う昨今である。京都議定書もやっと発効した。この時期に、官民一体となって環境に対する啓蒙を行い、広く世界に人類のすべきこと、環境に関する叡智や技術力を結集し発信することは、誠に時機を得た意義ある試みと思う。ここまで関わられてきた多くの方々、諸団体に改めて敬意と謝意を表したい。当社もトヨタグループ企業の一員として本万博に参加させていただく\*1が、大変名誉なことであり非常に嬉しく思っている。

そもそも万博は、「さまざまな産業製品、生産品、文化・文化財などを多くの人々に開陳し、人々に大きな『夢』を提供することを目的とし、産業、文化、生活の振興や向上を目指す一大国家イベント」である。産業革命が開花した19世紀の半ばロンドンで開催されて以来、人類のより良い生活、それを具体化する技術を伝播し、また文化・芸術の世界的大交流の場を提供してきた。このわずか150年の間に人類の生活水準、移動・物流、コミュニケーションは格段に改善され、科学技術の進歩は人類を地球外に押し出すまで、その活動領域を拡大させた。相対的に我々のこれまで生きてきた世界、自然、そして地球そのものが小さくなってしまい、今や拡大一途の我々の営みに対し「悲鳴」をあげ始めている。すべての人類にとって以前の『夢』が現実として手が届くようになってきた21世紀、今度は人類

の思惑とはうらはらに人類自身や地球までも、存続の限界に踏み込ませ、危機的状況が出現しようとしている。

21世紀最初の万博として“愛・地球博”は、9月25日までの185日間にわたり、愛知県名古屋市郊外東部丘陵において開催される。世界120余りの国々、国連や赤十字をはじめとする数々の国際機関も出展・参加し、期間中の入場者数は1,500万人を見込む。“愛・地球博”は“自然の叡智”をテーマに、地球規模ですべての「いのち」が共生できる持続可能な文化・文明の創造をめざす。これは、人類中心の『夢』の追求から、地球規模でのあらゆる生命にとっての最適解に至る道筋を示そうとする壮大なテーマである。成長・拡大の夢を見続けることは甘美かもしれないが、そうではなく、従来の自然と人間といった対立的な思考からいまま少し距離をおき、自然の美、神々しさ、その絶妙なバランス機能の中に生きる自分を発見させるという非常に哲学的な思索の道筋を、多くの人々に同時に提示するという過去に例のない試みとなる。“愛・地球博”すべての参加者はもとより来訪者すべてに、“我々が地球の将来を担う責務を

愛地球博  
EXPO 2005 AICHI JAPAN



持つ”という重い自覚を担ってもらわねばならない。当然、会場整備や運営においては、3Rシステム（Reduce、Reuse、Recycle）を徹底し、来訪者にも体験、参加してもらう必要がある。こうした自らが行う取り組みから、ゼロエミッションをめざした、新しい循環型社会のモデルを認知するわけである。それは決して今までのように、見物によって与えられるものではなく、参加者・来訪者相互の理解と行動、体験が不可欠である。

また、温暖化対策をはじめ環境への具体的取り組み等については、先進国・発展途上国、資源国・消費国といったそれぞれの立場や国益という枠を超え、「かけがえのないただ一つの地球」のために最適解を徹底的に話し合ってもらいたいと思う。万博開催期間中はほぼ2日に1度の頻度で参加国ナショナルデーが開催され、ナショナルデー開催国に対する知識や理解を深める絶好の機会が提供されると聞く。我々ホスト国側参加者や来訪者も積極的にこういった機会



会場で走行する次世代交通システムIMTS（自動追尾機能付き大型低公害バス）

を生かし、大いに地球のために意見を交わして欲しい。“愛・地球博”は、このように従来の価値観や国といった枠組みを超え、すべての「いのち」が共生できる上に持続的に成長できる文化・文明を創り出そうとする試みであり、そのためには一人一人の地球市民が、多種多様な言語、文化を超えてコミュニケーションできる仕組みも必要だ。そのために、会場運営や展示、催事の情報開示など多くの場面で、ITが積極的に取り入れられている。これも“愛・地球博”の特色の1つである。是非、事前に公式サイト\*2を訪問し、各展示館のそれぞれの公開システム等を予習され、実地に赴かれることをお勧めする。幾つかの展示館では事前入場予約などの機能があり、また新しい言語にも触れられ、会場での効率的な見学・交流に大いに役立つと思われる。

2月17日、“愛・地球博”に先立ち中部国際空港“セントレア”が開港した。この“セントレア”という愛称は中部を表す「Central」と空港を表す「Airport」の2語を掛け合せたものだ。1万通ほどの一般公募から選ばれたという。この新空港と“愛・地球博”の会場とは、名鉄空港線で名古屋を経由し、地下鉄とリニモ（HSST：磁気浮上式超電導鉄道）を乗り継ぎ約1時間で結ばれる。また、“愛・地球博”会場までは直接、車で乗り入れはできず、パーク&ライド方式になることにもご注意願いたい。これは、新空港も含めて周辺6カ所に万博専用の駐車場があり、そこから専用シャトルによる輸送を行うというもの。これにより周辺地域の交通渋滞が避けられ、環境負荷も低減され、時間も節約できる。

また、“愛・地球博”を見学される折には、是非、中部地方の他の名所・旧跡にも足を伸ばしていただきたい。戦国時代 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が国盗りに駆けぬけた地域であり、ゆかりの歴史史跡も数多い。またトヨタグループだけでなく、日本を代表する“モノづくり”の一大拠点でもある。多くの企業が資料館や活動紹介のプログラム等を持っている\*3ので、問い合わせてみてはいかがだろうか。製造業の現場を見れば、いろんなアイデアが湧いてくるし、子供達には新鮮な経験になるに違いない。

「愛・地球博」の現場では今、開幕の日まで運営、進行、警備、設備など最後の最後まで入念な準備が毎日のように繰り返されている。緊張と期待が高まり、極限状態に近い状況にあると想像できる。「万博」は単に入場料を徴収し、エンタテインメントを提供するアミューズメントパークではない。特にこの「愛・地球博」では、そこに流れる理念、趣旨をご理解いただき、全員参加で盛り上げて欲しい。是非、一人でも多くの方のご参加とご協力をお願い申し上げる次第である。

- \* 1 トヨタグループとして出展に参加する企業：  
 (株)豊田自動織機製作所、トヨタ自動車(株)、愛知製鋼(株)、豊田工機(株)、トヨタ車体(株)、豊田通商(株)、アイシン精機(株)、(株)デンソー、トヨタ紡織(株)、東和不動産(株)、(株)豊田中央研究所、関東自動車工業(株)、豊田合成(株)、日野自動車(株)、ダイハツ工業(株)、(株)東海理化
- \* 2 愛・地球博 公式HP  
<http://www.expo2005.or.jp/>
- \* 3 中部地域の企業博物館など  
[http://homepage3.nifty.com/hoshiais/tyubu\\_list.htm](http://homepage3.nifty.com/hoshiais/tyubu_list.htm)